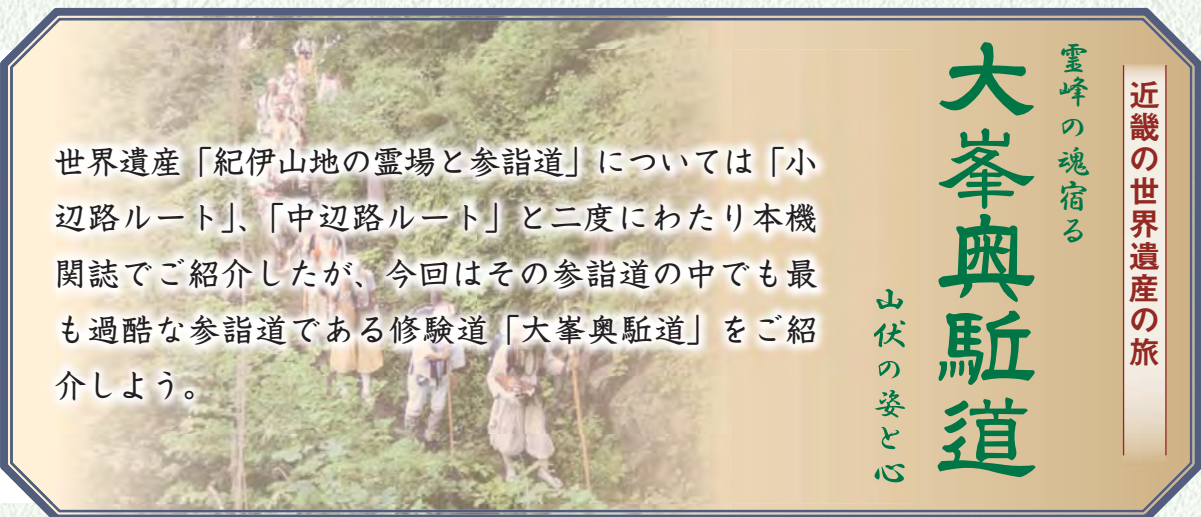


# 大峯奥駈道

山伏の姿と心

世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」については「小辺路ルート」、「中辺路ルート」と二度にわたり本機関誌でご紹介したが、今回はその参詣道の中でも最も過酷な参詣道である修験道「大峯奥駈道」をご紹介します。



取材者3名近鉄橿原神宮駅で合流し吉野線1時間のローカル線の旅となった。車中は平日(金)の昼前と言うこともあるのだが女性専用列車に乗り合わせたかと思間違うほど7割方女性客で占められていた。平日元気のいいのは女性群と改めて認識させられた。大和の国吉野山はわが国修験道の根本をなす金峯山寺蔵王堂を中心に、日本一の桜の名所であり、南朝60年の悲史とロマンを物語る数多くの史跡が残る。

桜花爛漫のその日近鉄吉野駅で下車、千本口駅からロープウェイで山上駅に登るのだが、まず改札口でグループごとに整理される。これが何の意味があるのと思いきや乗車人数確認(28人定員)と併せて記念写真を1枚。この写真は、山上駅に到着するや否やプリントされて販売されている。ユニーク(商売上手)な試みに感心した次第である。10分足らずで山上駅に到着、歩いて数分でお山の入り口黒門をくぐる。ほどなく右手に金峯山修験本宗 総本山 金峯山寺の本堂・蔵王堂(国宝)、重層入母屋造り、松皮葺き、高さ34m、四方36mの堂々とした建物が目に入る。取材の約束の時間もあるので本堂のお参りは後に回すこととして、取材先の大峯山護持院 喜蔵院

へと向かう。

本来なら、実際に奥駈道を踏破して取材すべきであるが、筆者の体力ではいかにも心もとない。ましてや、一日や二日での踏破は無理ということをお願いにして、今回は修験道での経験豊富な方に取材し、奥駈道の魅力と修験の心を教えていただくことにした。お話を伺うことになっている喜蔵院御住職の中井教善師は「大峯奥駈道」での修行を60回にわたってされたという。

だから坂から突然の急坂を上ると目指す喜蔵院に到着。今回特別にお願いして中井教善師には山伏の装束でインタビューに応じていただいた。



大峯山護持院 喜蔵院 住職 中井教善師

## 多士清々の修験者

奥駈修験に来られるのはどのような年代の方が多いのでしょうか。

多くは30歳代、60〜70歳代ですが、最高齢は84歳で現役の方もいます。広範囲でい



後々(20〜30年)までお参りしたことが分かるというものです。この責任を新客に任すことにしている。当然新客は責任の重大さを認識し役目を果たすことになる。絆は深まりお互いが助け合い、思いやることが育まれていく。このことが大事なことです。

大峯奥駈の75の扉全てに、「碑伝」を置くとなれば大変な役割だが…

本来は75扉必要とされますが、これ全てとなると12泊13日の行程を要することになり、時間+体力+精神力が求められる。今ではそこまではやっていません。吉野山でも75扉終えたのは今では私だけである。今は吉野

の「75番 柳の渡し」



から27番前鬼山」までを当寺(喜蔵院)のルートとしています。

大峯奥駈は「7番本宮」からの順峯(じゅんぼ)と7番からの逆峯(ぎゃくぼ)の二つの方法があり、近年は吉野からの逆峯が一般化されています。順峯が無くなっ



大峯山護持院 喜蔵院

ろんな人がおり外国の方も多くアメリカ、フランスからもやってきます。外国人のほうが純粋に山岳修行を経験したいと思っています。一方日本人の方は単に大峯山を縦走したいからということと登山に入って来る人が見受けられます。奥駈は一步一歩お山に入っていくという気持ちが大峯山、ここが通常の登山と違うところです。皆が道中の安全、満行をお願いする。喜蔵院では30名位を一つの隊(グループ)とし、新客(初参加者)に「ひで」の役割を担わすことにしています。

中井住職はWTO世界観光機関の主催であり、シドニー、ロサンゼルスで修験道についてご講演をされていますが、その関係で外国の方が来られたのですか。

フォーラムに出席したからそのついで来られたということではなく「大峯奥駈に連れてって」と直接連絡が入ってきます。

「ひで」の役割とはどのようなことをするのでしょうか。

大峯奥駈道には75の扉(なびき)いわゆる行場がありそこに「ひで」を置いていきます。「ひで」とは「碑伝」と書きますが、峯入修行を終えた標として板でできたお札でこれに願文、年月、名前などを記し、

たということではなく那智山青峯渡寺の  
立木住職は順峯で入られています。

### 精神力が試される奥駈道

一つの隊は30名と先程お聞きしたが、もつ  
と大人数になることはあるのですか

人数が多くなると危険率が高くなりま  
す。先頭から最後尾まで見渡せる位が危  
険がなくていいんです。「67番山上岳」ま  
ではそれほど怖くないが、ここを過ぎる  
と危険な箇所が増えてきます。「54番弥山  
(みせん)」から「27番前鬼山」までは岩場  
があり鎖伝いのところも相当あります。吉  
野山から前鬼山、小辺路を通り本宮まで  
2.5のキロが大峯奥駈道と申し上げたが、  
これは本山聖護院の「聖護院の宮様」が歩  
かれたということで、この道を辿ってお  
り今はほとんど前鬼山までとしています。

大峯奥駈は「役の行者」によって開かれた  
山岳宗教といわれていますが、熊野から吉野  
への目的は何なんでしょう

大峯山という山はなく吉野から熊野の  
山々を大峯と言って竜体として崇められ



教で○○宗と  
いうものがあ  
りますが大峯  
山は宗派を超  
えたものがあ

ります。以前ある宗派の若い僧と連れてお  
山に入ったが本人いわく「妙法蓮華」とは  
何か分からなかったが、大峯修行をして  
いる時、これを身体で感じたと言ってい  
ます。なにも無い自然の中での、喉の渴  
きを潤す一滴の水、  
しんどい時の頬を  
撫でる風、山下聞  
く鳥の鳴き声と五  
感がさえてきます。  
満ち足りて何で  
も手に入る世の中  
で山に入り皆が一つになった気持ちには言



葉では言い表せない感  
動、この感動は自分しか  
分からない、一緒に歩い  
たものにはしか味わえませ  
ん。ある者は戦争だとも  
います。  
寺に帰ってきた時の感

ています。竜尾と書いて「たの」というと  
ころがありますが、これは竜のシッポです。  
さすれば竜の口がどこかにあるはずで  
す。竜の口から入りシッポから出る「役  
の行者」は竜体の終点と吉野山としたの  
でしょう。

熊野から吉野は全体に神々が宿る山、お  
山全体に仏様の名前がついており一般の  
山と違い神仏がおられるとして崇められ  
てきた。本来なら一番(熊野の本宮)か  
ら7番に帰るのが姿であり、私も一番か  
らやってみましたが、順峯はなかなか厭  
しい道となりつらいというのが実感です。  
従って今はほとんど逆峯となっています。  
小辺路でさえもそうであった。…筆者は  
2007年夏、熊野古道「小辺路」の一端  
を十津川から(十津川温泉)熊野本宮(15km)  
歩き、その厳しさを身を持って体験した。  
本宮側から入ったなら最初で恐れをなし、  
とても歩き切れなかったのではと今でも思っ  
ている。

### 宗派を超えた修験の道

山岳修行と仏様とのかわりは何なんで

想で、「俺の水を飲み、重いリュックを持っ  
てやろうと言ってもらった、何とありがた  
いことか」と大の男が泣き出す始末です。

大峯奥駈は歴代途絶えることなく続いてき  
ているのでしょうか

戦時中は途切れていたかも知れないが  
「武運長久」と言って歩いた人もありまし  
た。寺の倉庫にも「武運長久」の願文が  
残っています。ただ、いわゆる明治元年  
(1868年)神仏分離令が出され、竜体  
毀釈により明治5年修験禁止令が出され、  
一時、途絶えた時期があります。

私は今67歳ですが中学2年生の時視に  
ついてお山に入ったのが最初です。平成  
20年に60回に達したのを機に引退し若い  
者に道を譲りました。お山へは、午前2  
時に起き3時に出発するのだが、お山の  
途中で「法螺の音」が聞こええると、若い  
者にまかせておけばいいと思っていても  
まだまだ心の中にお参りしたいという気  
持ちは強くなってきました。

しょう

日本人は山には神様がおられるのでは  
ないかと昔から思ってきました。山に畏  
敬の念を抱いています。里にはいない神  
が山にいる、その山に手を合わせるのは日  
本人の心がそうさせているのでは…、即ち  
亡くなった先祖が一番近くに帰ってこら  
れるのは山です。従って最初は山に手を  
合わせていたがそれが段々と山に入って  
行くことで、より先祖に近づけるとの思  
いが山岳信仰に繋がったといえます。大  
峯は人の手が入っていません。昔から綿々  
と続いてきた価値が世界遺産として認め  
られたのでしょう。

修験道は山岳信仰と仏教、神道の混淆(こ  
んこう)と言われていますが

大峯は神道、仏教、道教の要素が入って  
います。よくいわれる○○仙というのが  
あるが、これは道教の思想からきていま  
す。「役の行者の自然(じねん)即山、山  
即神」という単純な考え、「役の行者」は  
18歳で葛城山に入り修行のベースとしそ  
れから大峯山で修行を重ね「蔵王大権現」  
を感得され修験道の基礎を開かれた。仏

### 自己研鑽の道場：大峯奥駈

小辺路は村の生活道路として使われていた  
が奥駈道はどうなんでしょう

大峯は生活道路としては使われていま  
せん。お山に入っても森林作業の音も聞  
こえない正に修行のための道です。昔か  
らひとつも変わっていないことが世界遺  
産とされたのでしょう。新道は山腹を敵  
めるように進みますが、昔は横巻きとせず  
に険しい峰々を目指した所を進んでいる。  
仲間や古道捜査隊なるものを作って道を  
探しましたが、ちゃんと古い道が出てき  
ました。昔の人はこんな所を、しかも短  
時間で歩き続けた、何と健脚の持主かと  
今更ながら尊敬の念が湧きます。

奥駈とは正に「かけっこ」の意味合いがあ  
るのでしょうか、昔から集団での参加はあつ  
たのですか

昔は奥通(おくとおり)と書いていま  
した。今のようルートがはっきりしな  
い時代では熟練の先達さんがいないと無  
理で集団でというのはありません。大峯の  
奥通とされた人はほとんどいません。その

人は神様の扱いとされ、崇める人ならば、地べたに頭をつけて跨いでもらうとか、金剛杖で身体の具合の悪いところを「トントン」してもらい、それだけのもの（霊験）を持ってもらえる方です。

比叡山の千日回峯と同じなんでしょうか

比叡山の千日回峯は大変難しい修行ですが、大峯の奥駈と修行の意図が違います。大峯奥駈は個人の修行である。これは何十回重ねても個人の修行となるだけで、何かの位が得られるわけではないんです。ただ、自分のなすべきことは何か「役の行者」の足跡を踏んでみたいという純粋な気持ちからきていると思います。

### 实用性と精神性を備えた山伏装束

わざわざお願いして山伏の装束を着けていただきましたが、装束について少しご説明頂きたいのですが

※法螺貝（ほらがい）

神・仏がおられてもどこかに魔物が潜み修行の邪魔をします。法螺の音は「獅子吼」といい百獣の王の吼え声を聞く魔物も

近づいてきません（熊除けにもなる）。一般的にはラップバンドでいわゆる士気と鼓舞する役目があります。「あかん、しんどい」という時に自分は持物も少ないのに法螺を吹きながら登る人ももっとしんどい「よし頑張ろう」という気持ちにさせます。

法螺にも符があり宗派によってそれぞれ違います。仲間内の掛け合い、案内、説法、宿入りとか所作の時に吹き鳴らし、通信手段として使っています。隊は30名で法螺師が3名入っています。法螺師になるためには検定試験がありなかなか難しいようです。



※頭襟（とぎん）

大日如来様は五智の宝冠を頭に頂いておられる。その宝冠の代わりをするものとしており、6+6+12のヒダがあり、縁を表しています。山伏は水飲みコップ

ブとして使うこともあります。

※結袈裟（ゆいげさ）

輪袈裟には六つのフサがついており六波羅蜜を表しています。十界の修行の中で菩薩界（奉仕の行）の六波羅蜜行が最も大切な修行です。六つのフサは赤、紫、緑で階級を表しており赤フサが最上級となっている。山伏の階級は準先達、先達、準大先達、大先達、参仕、直参、峯中出世の7段階となっている。

（ちなみに、中井住職の房は赤でした。）

※螺緒（かいのお）

岩場を登る時や危難の時にこれを解いて用います。長さは2メートルあります。

ほかに鈴懸（すずかけ）、杖（しゃくじょう）、最多角念珠（いらたかねんじゆ）、引敷（ひしき）、手甲・脚絆（てっこう・きゃはん）です。

### 畏敬の念で接したい大峯奥駈

大峯奥駈道が世界遺産に登録され、一般の方が山に入られることについて何か思いはありますか

これは大変微妙な問題です。吉野大峯山というものをいろんな形で広く知って頂くのは大変ありがたいことです。

その一方で白半分で山に入られ滑落し亡くなったりされると、昔のままがいいのかなと思います。お山で出会うのは修行者だけにして欲しい気持ちもあります。私としては俗化されることが一番心配です。

例えば深仙（じんせん）の清水は、お香水として貴重な水で灌頂会の時に使われますが、この水はらよろらよろと流れてくるのを甚で受けて貯め込むのですが、これが水の貯まり場としてセメントで囲われてしまっています。喉の渴きをいやすということでは合理的かも知れないが、割り切れない気持ちです。また、危ないから橋を架けた、鉄で囲ったとか、或いは鉄板に説明書きなどをされると必要なことかも知れないが、つらい思いをします。こういった案内も熟練の先達が次の行場は

こういった所であると皆に説明する形がそのまま残ればいいと思います。そのための先達ですから…

私達もお山に入り朽ちて危険な箇所、大雪、大雨、地震等で岩崩れして危険な箇所等を調査し関係機関で「連絡協議会」を設け奥駈道が修行の場として昔のまま保全出来ればと願っています。皆さんにも是非ご理解頂きたいと思っています。

中井住職は、齢70歳を刻もうとするいまもなお、奥駈への熱い思いが衰えることはない。語っていたにいたっているその顔には、永年修験を通じて大峯の山々の心を体中で感じとってこられた信念がほとばしる。

「ちよūdい機会だから、この7月の奥駈修験の旅へ参加されたいかがですか？」という親切なお誘いに、

「はあ…、い、いや…その、ありがとうございます。ございます。いや、ですから…今日はお忙しい中、取材にご協力いただきありがとうございます。」

何やらわけのわからないお札の言葉を残して、午後3時前、喜蔵院を辞することにした。外は、お昼までの好天が嘘のように、大雨

である。

雨の吉野もこれまた一興と空威張りしながら、散策がてらケーブルの駅へと向かった。

（財）関西交通経済研究センター

首席研究員 山本 義弘

### 【取材協力】

大峯山護持院 喜蔵院

住職 中井教善師



# 運送事業者のパートナー



 近畿交通共済協同組合

〒536-0014 大阪市城東区鳴野西2-11-2 (大阪府トラック総合会館内)  
TEL:06-6965-2828 (代) FAX:06-6965-2838  
<http://www.kinkyo.or.jp> E-mail:kinkyo@kinkyo.or.jp

環境保全は

私たちひとりひとりに課せられた

避けては通れない

重いテーマです。

大阪府トラック協会は

環境保全を

どこまでも追求していきます。



OSAKA TRUCKING ASSOCIATION

社団法人 **大阪府トラック協会** 〒536-0014 大阪市城東区鳴野町西2丁目11番2号  
TEL.06-6965-4000 (代表) FAX.06-6965-4019

Quality First.

# SCM新提案、センコー。

新しい枠組みを創造すること…  
既存の枠組みを進化すること…  
「持続可能な社会」を構築すること…  
そこには、かならず人の「思い」が  
存在しています。

私たちは、そのような「人」の「思い」  
を理解し、共感したうえで共に成果を  
出したいと考えています。

ましてや、その規模が大きくなれば  
なるほど、多くの人の「思い」が  
重なりあい、大きなものとなってきます。

時には多くの人の「思い」を調整し、  
時には多くの人の「思い」で交渉し、  
時には多くの人の「思い」を説得し、  
時には多くの人の「思い」に叱られ、  
時には多くの人の「思い」でお願いする。  
…最後には、その「思い」の一部に  
なりたいたいと考えています。

現場主義のロジスティクスサービスを  
提供する合通では、みなさまの「思い」  
を探求しつづける「人」をご提供したい  
と考えています。

センコーは、国内トップクラスの物流センターと、世界20カ所に広がる現地法人・駐在員事務所を有し、  
陸・海・空の輸送モードを組み合わせたグローバルネットワークで、  
お客様の原料調達から最終納品までサプライチェーン全般の効率化を強力に支援しています。



# 人

株式会社 合通

〒553-0003 大阪市福島区福島5丁目3番8号  
TEL.06-6458-2551(代表)  
http://www.gotsu.co.jp

流通情報企業へ—  
 **センコー株式会社**

[www.senko.co.jp](http://www.senko.co.jp)  
〒531-6115 大阪市北区大淀中1-1-30-1500  
TEL.06(6440)5155